

# 平成28年度 学校評価総括表

(徳島県立徳島科学技術高等学校)

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	① 礼儀，責任，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，自主的自立的に行動できる人間を育成する。 ② 基本的人権を尊重し，自他を大切に，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③ 技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	① 進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型(複線型の進路体系)教育システムを生かし，生徒の個性を伸ばす教育を展開する。 ② SSH 事業の取り組みを通して，創造力・独創力を養い，人・地球にやさしいものづくりを推進する。工業，水産・海洋関係の技術者や科学者として国際社会で活躍することのできる人材を育成する。 ③ 一定の成果指標を定めたマニフェストに基づき，具体的な取組を実践し，特色ある教育活動を実践する。

達成度	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	テーマ 人間尊重の精神を培い，自他敬愛と協調性を基盤とした人間関係の醸成に努め，自覚をもって主体的に生き抜く，行動力のある生徒を育成する教育を推進する。
	① 授業や実習，部活動，家庭学習等において，自ら主体的に学ぼうとする意欲や態度を養う。 [主体的に学ぶ力の育成] ② 次世代を担う技術者として必要な専門分野に関する基礎的・基本的な知識，技能，技術の習得及び定着を図り，地域社会や産業界に貢献できる人材を育成する。[専門教育の推進] ③ グローバルな視点をもって将来設計ができるよう，キャリア教育の推進に努める。 [キャリア教育の充実]

## 年度総合評価

重点課題	SSH部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産 教育 (高大連携) (インターシップ)	工業・水産 教育 (スキルスタンダード) (資格) (コンテスト)	家庭・地域との連携
番号	1, 2	3, 4, 5	6, 7, 8	9, 10, 11, 12	13, 14, 15, 16	17, 18, 19	20	21	22	23, 24	25	26	27, 28, 29
総合評価	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B

## 学校自己評価

年度目標		年度評価(3月1日現在)						
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	SSH部 ① SSHの取組を行い，理数系教育を通して，科学技術人材の育成を図る。	① 課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図る。 (SSH部・各課・コース)	① 年度末にSSH研究発表会を開催する。 ② 各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	① 各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を11テーマ以上とする。 ② 各種コンテスト等に参加し，入賞以上をめざす。	(評価指標による達成度) ① SSH研究発表会でプレゼン発表7テーマ，ポスター発表10テーマ発表した。 ② 化学グランプリ，科学の甲子園等に参加した。 (活動計画の実施状況) ① 2月8日に実施。 ② 随時実施。	(達成度) A  (所見) ①② 計画通りに実施できた。	① 各コース1テーマ以上発表をすることで，SSHに関する意識付けができ，プレゼンテーション能力の向上にも繋がった。 ② 積極的に参加し，他校等で行われた発表会にも参加し，参加人数も増加した。	① 英語での発表もできるようにしたい。 ② 参加数を増加させるだけでなく，入賞数も増やす。
2		② SSHの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 (SSH部・各課・コース)	① 魅力あるSSH事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	① 「SSHの各種事業に参加して，科学技術に興味・関心が増した」70%以上。	(評価指標による達成度) ① 1年生 82.8% 2年生 75.4% 3年生 66.4% (活動計画の実施状況) ① SSH研究発表会後にアンケート調査を行った。	(達成度) A  (所見) ① 目標値をほぼ達成できた。	① 理科科目への興味・関心が得られた。 課題研究等への意識付けができた。	① 1年生にも理解できるような発表を心がける。 SSH課題研究の教材等の成果を出す必要がある。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
3	人権教育 ① 学校生活のあらゆる場面で、人権教育を展開する。	① 人権尊重の精神の涵養が図られるよう、学校教育活動全体の中で、人権教育を推進する。(進路部・人権教育課)	① 本校の人権教育年間計画における各課・教科の人権教育努力目標の作成。 ② 人権学習(ホームルーム活動・科技高人権 day)等において個人人権課題について学習する。 ③ 指導内容・方法の工夫・改善を図るため、研修機会や校内研修の充実に取り組む。	① 各課・教科それぞれが計画通り行事等を実施できている。(90%以上) ② 個人人権課題の学習。(10課題以上) ③ 人権学習事前研修、地域研修、校外研修(各種研究大会)の実施。(年7回以上)	(評価指標による達成度) ① 90%以上達成。 ② 11課題の学習を実施。 ③ 校内外の研修を7回実施。(活動計画の実施状況) ① ほぼ計画通り実施できた。 ② ホームルーム活動や科技高人権 day において幅広い学習ができた。 ③ 各種研究大会にはのべ19名が参加。	(達成度) A  (所見) ①②③ともほぼ計画通り実施できた。	① 各課・各教科の協力もあり、人権教育の視点から様々な活動ができた。 ② あらゆる個人人権課題を学習することで、人権意識の向上につながった。 ③ 各種研究大会へ積極的に参加できた。	① あらゆる教育活動の中で人権教育の視点が意識できるよう努めていきたい。 ② 来年度も継続し、生徒・教職員の人権意識向上に努めたい。 ③ 各種研究大会に参加するだけでなく、報告書を作成し、参加していない教職員にも伝達できるようにしたい。
4	② 内容を精選し、充実した人権学習を展開する。	② 安心して楽しく学べる学習環境の整備に努め、豊かな人間性を育成し、学んだことを行動に結びつけることのできるスキルを養う。(進路部・人権教育課)	① 教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ、人権感覚を磨くための研修の充実。 ② 校外行事等(地域やあいぼ一と徳島が主催する行事)の案内。 ③ 人権意識調査、インターネット意識調査の実施。	① 校内人権教育研修(年間計画、人権意識調査の分析、外部講師による人権講演等)の実施。(年2回以上) ② 職員会議や職員朝会等で、各種行事の案内を適宜行う。(年30回以上) ③ 定期的に実施し、生徒の人権意識の変容を確かめる。(年3回以上)	(評価指標による達成度) ① 年2回の実施。 ② 年30回以上達成。 ③ 計1回実施。(活動計画の実施状況) ① 1学期に1回実施した。 ② 学校に届いた校外行事は、すべて職員に案内した。 ③ 4月に実施した。	(達成度) B  (所見) ① ほぼ予定通り実施できた。 ② 校外の行事をすべて案内することができた。 ③ 年1回実施にとどまった。	① 1学期は教育相談課と連携し実施することができたが、その後は予定していた日程で研修を行うことができなかった。 ② あいぼ一と通信や講座、地域の催しなど、さまざまな案内をしたが、参加者は少なかった。 ③ 年度当初の実施については、特に1年生の実態を知ることができ、HR計画に反映することができた。	① 他の課やコースと連携を図って日程を調整できるように努力したい。 ② これからも継続し、人権啓発に努めたい。 ③ 2回目の実施を年度末に行うかどうかは今後の検討課題にしたい。
5	③ 相手やまわりの気持ちを理解し、他人を傷つけない精神を養う。	③ 生徒一人一人に居場所があり、安心して過ごせる場所であると実感できるクラスや学校全体の雰囲気づくりを行う。(進路部・人権教育課)	① 人権集会(全体学習)を実施し、よりよい人権感覚を養う。	① 人権学年集会、人権全校集会等を行う。(年1回以上)	(評価指標による達成度) ① 人権学年集会を4回実施した。全校集会は1回実施した。 (活動計画の実施状況) ① 人権学年集会は、各学年1回以上ずつ実施した。人権全校集会は、携帯電話安全教室を1回実施した。	(達成度) B  (所見) ① ほぼ予定通り実施できた。	① 同和問題をはじめとするあらゆる人権侵害について考えるよい機会となった。	① 各HRでの学習だけでなく、学年共通で学ぶ機会は今後も継続すべきである。来年度は外部講師を招いての学習を積極的に取り入れたい。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
6	学習指導 ① 課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、基礎・基本の定着を図る。個別指導により、生徒間の差を是正していく。また、家庭学習等への取り組みも促す。	① 基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技術を身につけさせる。(教務部・教務課)	① 生徒の実態把握に努め、指導内容に創意工夫を生かしたり、内容の重要性や生徒の実態に応じてその取り扱いの軽重を考えるなどして生徒一人一人の能力を伸長する。また、必要に応じて義務教育段階の学習機会も適宜設ける。	① 学年末成績の各教科・科目平均点を昨年度の1%アップをめざす。	(評価指標による達成度) 2学期末の段階ではあるが、各教科全体の平均として、1・2学期末と昨年度学年末を比較して1.05%アップしている。ただ、減少している教科も見られた。 (活動計画の実施状況) アクティブラーニングの手法を用いた授業を実施しており、興味関心を増すように取り組めた。また、放課後遅くまで、個別指導を行うなど、生徒一人一人の能力の伸長に努めた。	(達成度) B  (所見) 授業に対する興味関心は増加したが、結果に結びつかないところもあった。	アクティブラーニングの手法を用いた授業を実施していたため、意識調査では、「授業が楽しい」、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている」が昨年度に比べて増加している。	意識調査の結果からは興味関心を持って授業に臨んでいる状況が十分に伺えるが、さらに知識の定着が進み、より高度な内容にも挑戦するような取り組みも必要である。
7	② コース選択において、個別ガイダンスの工	② 授業や面談等を通じて具体的に「学びの指針」を示し、学習意欲を喚起	② 自主的に学習に取り組む態度を育むため、生徒の学習の進め方や現状課題を確認する活動を	②-1 今年度授業評価における自己評価のポイント数を、昨年度の0.3%アップ	(評価指標による達成度) ②-1 授業評価における自己評価の授業準備では昨年	(達成度) B	考查1週間前の休日から家庭学習に取り組むように担任から働きかけたり、授	授業だけでなく、授業以外の取り組みを通して、学習意欲を喚起し、授

	夫により、1学年の早い内から目的意識を持たせ、目標に向かって努力を続ける、自己学習力を身につけさせる。	するとともに、学習習慣の確立を図る (教務部・教務課)	計画的に取り入れ、家庭においても学習の見通しを立てて予習したり復習したりする習慣の確立を図る。	をめざす。 ②-2 今年度意識調査における家庭学習1時間以上のポイント数を、昨年度の5%アップをめざす。	度と変わらず3.8と高かったが、試験勉強では昨年度より、3.4の微減となった。 ②-2 意識調査では、1時間以上勉強しているが32%から45%に大幅に増加している。 (活動計画の実施状況) 考査1週間前の休日から家庭学習に取り組むように担任から働きかけた。	(所見) 自己評価では昨年度とほぼ同様の結果であったが、意識調査では家庭学習の時間が増加しており、試験勉強の努力が必要であるという自覚が伺える。	業等で学習の進め方等を示したりしたことにより、家庭学習時間が増加し、予習や復習の習慣が身につくつある。	業に対する準備や家庭学習に結びつけ、結果として学力の向上につながる取り組みが必要である。
		③ 将来を見据えた望ましい職業観を育成し、主体的に他者と協働して学習する態度を育てる。 (教務部・教務課)	③ 類での専門教育や職業内容の研究を通して、将来の就職等への具体的な目標を持ち、その達成のために自主的に学習に取り組む態度を育む。 また、実験・実習をとおして人間関係形成・社会形成能力を育む。	③ 今年度授業評価における自己評価のポイント数を、昨年度の0.3%アップをめざす。	(評価指標による達成度) 授業評価における自己評価の授業態度では昨年度と同様に3.6と高かった。また、記録、提出物も3.7と高い結果となった。 (活動計画の実施状況) 資格試験やコンクール等に積極的に取り組むことで、高い意識を持ち続けている。また、大学との連携を通して、研究の深化も達成できた。	(達成度) B  (所見) 資格試験やコンクールに積極的に取り組み、意識は高く維持できているが、結果が出ないところもあった。	資格試験やコンクール等に積極的に取り組むことで、意識は高く持ち続け、主体的に学習する姿勢を育成できている。また、自分の進むべき、進路についても具体的に考えることができています。	資格試験では結果が残せるように授業等の改善などに取り組む必要がある。また、高い意識を持ち続けるためにも、大学等との連携を一層積極的に行っていく必要がある。
8	④ 読書の奨励を図り、基礎学力の向上と生涯にわたる学び続ける能力を育てる。 (教務部・教育情報課)	④ 図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	④ 図書貸出数が月間300冊以上。		(評価指標による達成度) 平均月間貸出数380冊 (活動計画の実施状況) 新入生オリエンテーション図書館だより発行(10回) コース別推薦図書リスト作成(4種) 図書展示・読書推進イベント 県立図書館との連携 読書感想文課題の実施 各種コンクール応募案内 図書委員会活動として推薦図書リスト作成(2回) 文化祭展示	(達成度) A  (所見) 月間貸出冊数は約3割増加し、目標値を超えることができた。	新入生オリエンテーションや、広報・展示・イベントにより図書館に興味を持たせ、貸出数に繋げることができた。 教科やコースでの図書館利用が、幅広いジャンルの図書の貸出に繋がった。 図書委員会活動に少しづつ自主性が見られるようになった。	クラスによって貸出数に差があり、全体に読書習慣を身につけさせるために、担任等と連携し粘り強く働きかける必要がある。また、多様化する生徒の進路や、アクティブラーニングに向けて、多角的な資料を備える必要がある。加えて、図書委員会活動のさらなる活性化も必要である。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
9	生徒指導 ① 基本的な生活習慣を身につけさせる。遅刻者数を減少させる。最低限昨年度の数値を維持する。また、家庭との連携を密にする。	① 基本的な生活習慣の確立を図り、時と場にふさわしい礼儀・あいさつ・言葉遣いを身につけさせるとともに、遅刻回数を減らして規則正しい生活リズムを構築させる。 (指導部・生徒課)	① 遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ② 外来者へのあいさつを徹底する。また、集会時において、8Sの一つである「躰」を徹底する。 ③ 問題行動の未然防止に努める。	① 月間登校時遅刻率を1.0%未満とする。(1日当たり9.0人) ② 毎月5日間、コース長、学年主任(学年副主任)、当日直で正門にて登校時の身だしなみ指導を実施する。 ③ 毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し、各教室の施錠確認と生徒生活状況の確認を行い防犯等に努める。	(評価指標による達成度) ① 1日遅刻者平均は、4.6人で0.51%であった。 ② 毎月初めに5日間実施し、登校時身だしなみ指導をコース・類長、学年主任で行った。 ③ 各授業開始直後に各教室の施錠確認および校内巡視を実施した。また、昼休み時間は、校内の主要な門での巡視も行った。 (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施できた。 ② 担当教員と連携をして、計画通り実施できた。 ③ 担当教員と連携をして、計画通り実施できた。	(達成度) A  (所見) 計画通りに実施できた。	① 数値的には、目標達成できた。しかし、年度前半は昨年度より減少傾向であったが、年度後半において第3学年の遅刻者数が増加した。年間を通して、遅刻回数が月4回以上の生徒に対して、翌月に居残り指導を実施した。8回以上の遅刻者も特定の生徒に目立ち、改善が十分にできなかったと思われる。 ② ほとんどの生徒が、身だしなみに気をつけ、登校ができた。 ③ 各クラスの施錠状況もよく、空き教室内でのトラブルは起きなかった。	① 1日遅刻者平均者数を本年度と同様、1.0%(1日平均約9.0人)を目標とする。 ② 本年度通り実施して、連携を深め指導を強化する。 ③ 本年度通りの巡視体制を継続して実施する。
10	② 遵法精神の涵養と意識の高揚と知識の	② 定期的に規律指導を行い、ルールを守り集団生活の規律向上に努める。そして、自ら考え判断し	① 一人一人が充実した学校生活を送る中で自分を大切にすることが他人を思いやることにつながることを気づかせる。	① 規律指導を毎月初めに実施し、指導を徹底する。各回とも違反者については、一定期間内で完全に直させる。	(評価指標による達成度) ① 規律指導に抵触した生徒はほとんど見られなかった。一部で軽微な違反が見られ	(達成度) B  (所見)	① 担任と連携し、保護者の理解、協力を得ながら、指導には全員、正しい頭髪服装に直すことができ	① 全教職員が共通理解をし、温度差のない指導を行えるように体制を整える。保護者との連携も密

	定着を図る。また、全教職員が温度差のない指導が行えるようにする。	行動できる能力を育てる一助とする。 (指導部・生徒課)	② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WEB 関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを実施することで、心の躰教育の一助とする。	② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WEB 関係を含む)安全教室や制服を美しく着こなすセミナーを開催し意識の高揚を図る。	たが、全員決められた期日までに直すことができた。 ② 計画通り実施できた。 (活動計画の実施状況) ① 服装・頭髪で指導を受けられる生徒は、ほとんど見られなかった。 ② 意識の高揚と知識の定着が見られた。	計画通りに実施できた。	た。また、欠席者の生徒に対しても後日呼び出し、頭髪服装検査を受けさせた。 ② 各講演を真剣に聞くことができ、学校生活に活かすことができた。	にしながら本年度以上の協力、理解を得られるよう努力する。 ② 本年度通り実施する。また、より一層の意識の高揚と知識の定着のため、学年毎の講演実施も計画する。
11	③ 交通道德を遵守させ、登下校時の交通安全指導を徹底させる。	③ 「学校安全の日」、「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して、交通安全教育の一層の徹底を図る。 (指導部・生徒課)	① 毎月20日を「学校安全の日」とし、教職員、保護者と生徒課員が連携して通学時に混雑が予想される場所について登校指導を行う。 ② 自転車の点検や駐輪場での施錠確認、駐輪状態確認を行う。交通安全教育を充実し、道路交通法を遵守させる。 ③ 交通委員によるあいさつ運動と生活委員による駐輪場の整理・整頓を行う。	① 年間を通して、日直と生徒課員が、正門を含め学校近隣で、登下校指導を行う。特に、毎月20日には、輪番制で各学年 PTA 役員と教職員が共同で登校指導を行う。 ② 年間5回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身に付けさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を繰り返し行う。	(評価指標による達成度) ① 概ね実施できた。 ② 計画通り実施できた。 ③ 計画通り実施できた。 (活動計画の実施状況) ① 登校指導は計画通りできたが、下校指導については、生徒課が中心となり実施できた。 ② 雨合羽着用生徒数は、増加したと思われる。しかし、傘差し運転をしている生徒も「0」ではないと思われる。 ③ ほぼ、計画通り実施できた。	(達成度) B (所見) 計画通りに実施できた。	①③ 教職員、PTA 役員や交通委員と協力して交通安全指導を行い、交通マナーの向上に努めたが、前年度より交通事故者数が増加した。加害者になった生徒はいなかった。しかし、学校から離れた所では、月1回の警察官からの警告者件数も多く、道路交通法違反者は少なくはない。 ② 未整備車両は減少した。一部の生徒ではあるが、自転車乗車マナーが悪いことで、歩行者の方からの注意を受けた。	①③ 自転車事故での高額賠償請求も発生していることから、任意保険への加入を勧める。 ② 本年度通り実施する。事後指導も粘り強く行う。
12	④ 生徒が安全で安心して生活できる環境を整え、自己実現の一助とする。	④ 教育活動全体を通じ、全ての生徒に「いじめは決して許されない」ことへの理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 (指導部・生徒課)	① 定期的に校内巡視を行い、いじめの未然防止に努める。またいじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。	① 各学期末に、年合計3回のいじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し、生徒生活状況の確認を行う。	(評価指標による達成度) ① 計画通り実施できた。 (活動計画の実施状況) ① 各学期の終わりに、特設の HR を設定し、いじめ・体罰被害アンケートを実施できた。	(達成度) A (所見) 計画通りに実施できた。	① アンケート調査結果から迅速に対応し、生徒からの相談、悩みに対して組織的に対応するとともに、解決をする一助となった。	① 本年度通り実施する。「いじめは絶対に許さない」という強い信念を持ち、些細な生徒からのシグナルを見落とさないように心がける。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
13	進路指導 ① 将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と、生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導を展開する。	① 進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① HRへ各種進路情報を提供する。	アンケート調査 ① HRへの情報の提供満足度 3.6以上 (4段階)	(評価指標による達成度) ① 本年度の学校評価アンケートの結果から生徒91.1%、保護者84.8%の満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 必要に応じ随時実施した。	(達成度) A (所見) ① 概ね達成できた。	① 情報提供を行う中で、情報の共有ができ、生徒の進路実現に対する意識の向上および生徒自らが考えるきっかけとできた。	① 進路実現に対する生徒の意識をさらに向上させるために、オープンキャンパスや工場見学への参加の機会を増やす。そのために、適切に生徒への情報の提供を適宜行う必要がある。
14	② 求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。	② 生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に対応した組織的・継続的な進路指導を展開する。 (進路部・就職課・進学課)	① 生徒一人一人の理解を深めるために個人面談・アンケート調査を実施する。 ② 生徒の希望や能力に応じた進路保障を実現するため、進学・就職補習および進路相談を充実させる。	アンケート調査 ① 個人面談・アンケート調査への満足度 3.6以上 (4段階) ② 補習・進路相談に対する満足度 3.6以上 (4段階)	(評価指標による達成度) ①② 本年度の学校評価保護者アンケート結果から84.6%の満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 個人面談は各担任およびコース長により4月から継続的に実施できた。アンケート調査は、3年生で4月～7月の4回、1・2年生で1月の1回実施した。 ② 補習は、年間計画通りにほぼ実施できた。	(達成度) A (所見) ① 個人面談は各クラスで十分実施できた。 ② 補習は年間計画通りに実施できた。	① 特に3年生は4月から放課後を利用して継続して面接を実施することで、進路に対する意識の高まりが早くなった。 ② 放課後の進学補習を実施したことで早期からの進学意識の向上につなげることができた。また夏休みに特別補習を実施し、進学希望者への継続的な指導を行った。	① 放課後は校務等のために継続した実施が困難なクラスもあった。各担任だけではなく、コース長も協力することにより、次年度はすべてのクラスで計画的に実施する必要がある。 ② 技術系の進学希望者が大幅に増え、対応する教室の確保が困難であった。以前から使用していた特別教室を進学補習に対応できる教室に変更する必要がある。
15	③ 進路達成に	③ 生徒生活実態調査を年	① 6, 9, 11, 2月にそれぞ	①-1 技術系の平日の家庭学	(評価指標による達成度)	(達成度)	①-1 生徒の家庭での生	①-1 クラス単位、コー

	向けて学習指導の充実を図る。	4 回実施し、生徒の家庭での生活を把握し、改善に努める。 (進路部・就職課・進学課)	れ調査を実施し、HR担任と生徒との面談の資料として活用し、主体的な取り組みが行えるように促す。	習時間を1時間以上、休日の家庭学習時間を2時間以上 ①-2 科学系の平日の家庭学習時間を2時間以上、休日の家庭学習時間を3時間以上	学習時間0時間が全体の30%を占めており、厳しい現状にあるが、技術系平日の学習時間は概ね1時間程度であった。(休日は平日より若干少ない) (活動計画の実施状況) 科学系についてはほぼ目標通り達成できている。休日の時間についてはまだまだ改善の余地がある。	C (所見) 予定どおり実施できた。家庭学習時間は予想以上に少なく改善する必要がある。	活を把握する面では効果があった。ただし、生活実態調査を面談に活用しているHR担任が少ないように思われる。また、家庭で学習している生徒とそうでない生徒の2極化がみられた。 ①-2 科学系は生活記録ノートを提出させる指導を行っており、HR担任との個人面談を定期的に行い、家庭学習の把握に努めている。	ス単位で学習時間向上に向けてのきっかけづくりとして活用すべきであるが、活用が難しいのであれば個人面談週間等をつけて生活実態調査が活用できる機会を作るべきである。 ①-2 生活記録をきちんと書いて提出する生徒とそうでない生徒がおり、まだまだ徹底できている状況にない。担任だけではなく副担任も積極的に点検に関わるなど複数の教員で指導する必要がある。
16		④ 進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① 生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。 ② 進路講演会等により、勤労観、職業観を養い、職業に対する意識の高揚を図る。	① 進路ガイダンス実施後満足度 3.6以上(4段階) ② 進路講演会等実施後満足度 3.6以上(4段階)	(評価指標による達成度) ① 実施後のアンケートで概ね生徒からも好評であった。 ② 実施後のアンケートで概ね生徒からも好評であった。 (活動計画の実施状況) ① 大学の先生や進学情報会社の講師を招き、実施できた。 ② 企業の社長や本校の卒業生を講師に招き、実施できた。	(達成度) B (所見) ① 進路ガイダンスは計画通りに実施できた。 ② 進路講演会は必要に応じて講師を招聘して実施できた。	①② ガイダンスや講演会では学校外部の方々からの講話を聞くことができるよい機会である。ガイダンスで各分野ごとの説明を聞いたり、講演会では企業で活躍する卒業生からの貴重な経験を聞いたことは将来の目標を考える上で貴重なものとなった。	①② 最新の情報や話題は生徒にとっても魅力的に感じており、進路意識の醸成につながっていた。また小論文講演会や模試を実施することで文章を読んだり書いたりすることの必要性を感じる良いきっかけとなった。 卒業生を招いての講演会を、今年度も全クラスで実施することができた。次年度もできる限り多くのクラスで実施する必要がある。

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
17	教育相談・特別支援教育 ① 相談・支援活動を充実させる。	① 生徒の変化を見逃さない。 (指導部・教育相談課)	① 生徒の出席状況の把握と支援の検討。 ② 専門機関との連携。	① 欠席の続く生徒に関して適切な対応検討をする。 ② 必要に応じて専門機関との連絡を図る。	(評価指標による達成度) 時期によりばらつきがあったものの、ほぼできた。 (活動計画の実施状況) ①-1 一学期にクラスの状況を把握することで、特別な支援を必要とする生徒への対応をすることができた。 ①-2 毎日の生徒の欠席状況から生徒の状況を把握し、関係する教員と連携し管理職へ報告できた。 ② 教育委員会や専門の医療機関・福祉施設との連携などが図れた。	(達成度) B (所見) ほぼ計画通りにできた。	①② 毎日の生徒の欠席状況を把握することで、生徒の状況を担任や関係する教員と共有し、保護者や専門機関とうまく連携できたケースもあった。また、学年主任も含めて情報交換をし、そのことによってより多面的に生徒の状況を把握することができた。	①② 次年度も引き続き生徒の欠席状況や保健室利用状況を把握することで、早期に生徒の問題を見つけ対応する。また、担任の先生が一人で抱え込んでいないか留意する。
18		② 相談活動を充実させる。 (指導部・教育相談課)	① 教育相談室の放課後利用 ② 相談事業の広報	① 毎週火・水・金に相談室を開室する。5月・9月を教育相談月間とし、毎日相談室を開室する。 ② 「ほっとだより」を各学期1回以上発行する。	(評価指標による達成度) ① 放課後は学習指導等のため開室が難しい時期があった。 ② 計画通り発行できた。 (活動計画の実施状況) ① 教育相談室の開放を行っているが、生徒からの相談回数の増加は見込めなかった。 ② 「ほっとだより」は、生徒の手書きイラストも入れて、手作り感のある「ほっとだより」が計画通り発行できた。	(達成度) B (所見) ほぼ計画通りにできた。	① 担当を忘れないように、回覧を回して担当を喚起するよう試みた。他の生徒活動指導のため放課後の相談室開放が難しいこともあった。 ② 「ほっとだより」は、放課後の教育相談を推進する上で大切な役割を持つので、生徒の認知度を高める内容作りに努めることができた。	① 引き続き、回覧を回すようにする。 ② 「ほっとだより」は、次年度も生徒の手書きイラストを取り入れたい。
19		③ 学校全体での支援体制	① 校内研修会の開催	① 校内研修会を年1回以上開	(評価指標による達成度)	(達成度)	① 一学期は人権教育課と	①② 次年度も引き続き、

		の充実を図る。 (指導部・教育相談課)		催す。 ② 校外研修会への参加を呼びかける。	① 1回開催できた。 (活動計画の実施状況) ① 本年度は「インターネット依存症」について講演を聴き、理解を深めた。 ② 掲示を通じて広報したり、職員朝礼時に全教員に研修会を連絡したりできた。	A (所見) 計画通りにできた。	教育相談課の共催で校内研修会を開催し、二学期には、全校生と全教職員を対象とした講演会を開催することができた。 ② 校外研修に参加することによって、最新の研究や他校のケースに触れ、本校の教育相談業務に生かすことができた。	その年度の生徒の必要に応じた内容の研修会を開催したり、参加したりしたい。
20	環境教育 ① 各クラスの環境整美委員会を中心にHR担任や清掃分担の教員の協力のもと日頃の清掃指導の徹底を行う。	① 日々の清掃活動の充実を図り、美しい環境が整った学校づくりに努め、次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃で心を磨く科技高生」の実践を行う。 (特活部・環境教育課)	① 校内美化週間期間中、環境整美委員会を中心に清掃の徹底、ゴミ分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓等丁寧に行う。 ② 学校行事(体育祭、文化祭)などの際に発生する、ゴミ問題について、環境整美委員会を中心とした環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り、各自のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。	① 日頃の清掃、ゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓がなされたか。 ② 校内への泥汚れ侵入禁止。 ③ 学校行事(体育祭、文化祭)などの際、環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナーが守れたか。	(評価指標による達成度) ① 日頃の清掃状況について ・毎日清掃が良くできた。 87% ・ゴミ分別が良くできた。 90% ・掲示物、ロッカーの整理整頓が良くできた。 81% ② トイレの使用状況が多少悪化しているように思う。 ③ 学校行事について ・体育祭でのモラルやマナーが守られた。 88% ・文化祭でのゴミ分別は守られた。 82% (活動計画の実施状況) ① 各クラスの環境整美委員会を中心にHR担任の指導のもと清掃の徹底・ゴミ分別の徹底によく取り組んだ。 ② 学校行事について 環境整美委員は、体育祭、文化祭共清掃や啓発活動を率先して頑張った。	(達成度) B (所見) 評価指標関係について、多少改善しなくてはならない。 ① 清掃の徹底・掲示物・ロッカーの整理整頓に多少の改善点が必要である。 ② 毎日のトイレ清掃は、概ね達成できた。 ③ 体育祭のモラルやマナーが多少改善したように思う。 文化祭については、多少改善しなくてはならない。	① ・日頃の清掃活動について 「清掃が大変良くできた。」「よくできた。」含め 87% 「多少改善点がある」 12% 多少改善しなくてはならない。 ・ゴミ分別について 「ゴミ分別が大変良くできた。」「よくできた。」含め 90% 「多少改善点がある。」 10% 今後もゴミ分別に対する意識の高揚に取り組まなくてはならない。 ・掲示物、ロッカーの整理整頓 「掲示物、ロッカーの整理整頓が大変良くできた。」「よくできた。」含め 85% 「多少改善点がある。」 9% ロッカーの上が散らかっていて改善点が多い。 ② 学校行事について ・文化祭 「校内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め 30% 「模擬店でのゴミの分別多少改善点がある。」「改善点がある」含め6% ・体育祭 「競技場内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め 33% 「マナーを守り、各自のゴミは、持ち帰る。」「多少改善点があった。」「改善点があった。」含め 12% 文化祭では、入場者や生徒たちへのマナーやモラルの高揚を行わなくてはならない。 体育祭でもごみを出さない工夫が必要であり、引き続き啓発活動を実施していく必要がある。 ③ 環境整美委員会を年間5回実施し、係活動では概ね良くできた。	① 各クラスの環境整美委員会を中心にHR担任や清掃分担の教員の協力のもと指導の徹底を行う。また、アンケート調査等で清掃分担場所の清掃状況を把握し、環境美化週間等に反映していきたい。 ② 文化祭・体育祭等でも例年以上に啓発活動を実施していかななくてはならない。 ③ 環境整美委員会を随時開催していきたい。
21	防災教育 ① 防災委員、防災クラブの活動をベース	① 地域と共に防災活動を行い、社会の一員として、求められている防災マインドを育てる。	① 地域と共催の防災訓練を企画、実行する。	① クラス代表全員で等身大人形などで、救護訓練を行う。また、避難訓練では地域の人の誘導などができるようにす	(評価指標による達成度) ① 年2回の避難訓練。徳島県防災フェスタでのボランティア参加。徳島市危機管	(達成度) A (所見)	① 訓練は数を重ねると洗練された動きになり、1200名を超える人数の動きでもスムーズに把握	① 突発的な訓練や、大きな被害想定をしての訓練なども必要だと考える。

として、災害時に命を失わない、役に立つ心を育成する。	② 災害時をふくめ、社会で主体的に動ける心を育てる。(防災教育)	② 災害時に必要な器具等を使う訓練を日常から行う。	る。 ② 炊き出しの機材を用いて、炊き出しができるようにする。	理課への等身大人形・本校制作の震災ライトの展示。 ② 2学期末の炊き出し訓練(活動計画の実施状況) ① 年2回の避難訓練を行い、一学期、第1回目の避難訓練では地域の住民、保育園児、幼稚園児、約300名を本校生徒が避難誘導した。 ② 二学期、第2回目の避難訓練後に、炊き出し訓練を行ったが、約350名の炊き出しを防災クラブの生徒、約20名が行うとともに、炊き出しを受ける生徒も訓練の大切さを学んだ。	防災教育に終わりはないので、日々啓発活動を心がけていきたい。また、マンネリ化や意識低下を防ぐ意味でも視点を変えた啓発活動も大切である。	できた。それも生徒一人一人の意識の高さの現れである。 ② 概ね炊き出し訓練の意義や、震災時の心構えも理解して行動することができた。結果として共助の行動ができている。	② 震災時に必要な知識や、器具なども研究して、できることなら制作、活用していきたい。
----------------------------	----------------------------------	---------------------------	------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
22	保健安全教育 ① 保健安全に関する指導・情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。	① 生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。(特活部・保健厚生課) ② 生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。	① 定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会を中心に、教室内の環境整備・安全点検、AEDの定期点検等を実施する。 ③ 学校行事における保健安全活動を充実させる。(特活部・保健厚生課)	①-1 定期健康診断受診率100% ①-2 保健だよりの発行(月1回) ②-1 生徒保健厚生委員会活動(月2回) ③-1 HR活動等における保健講演会の開催(年1回) ③-2 文化祭における保健展を開催する。 ③-3 学校献血の実施(年3回)	(評価指標による達成度) ①-1 定期健康診断受診率100% ①-2 保健だよりを月1回発行 ② 生徒保健厚生委員会活動を月平均3~4回実施 ③-1 歯科講演会(1年)の開催(年1回) ③-2 文化祭における歯科保健展の開催 ③-3 学校献血を年3回実施 (活動計画の実施状況) ①-1 未受診者に対して定期健康診断の意義を繰り返し説明し、学校医・歯科医の協力により、受診率を100%にすることができた。(長期欠席者を除く) ①-2 保健だよりを月1回、特別号を年2回発行した。 ②-1 安全点検だけではなく、定期健康診断や文化祭保健展、エイズ予防啓発活動、風邪予防等、様々な機会を捉えた活動ができた。 ③-1 専門家を招いて、歯科講演会を開催したが、講演会は年1回しか開催できなかった。 ③-2 学校歯科医等の協力により、文化祭での歯科保健展を開催し、たくさんの来場者があった。 ③-3 学校献血を年3回実施し、のべ215名(昨年度141名)の生徒・教職員が献血に協力することができた。	(達成度) B  (所見) ③-1以外は概ね計画通りだった。 ③-1については、講師の予定や学校行事との調整がうまくできなかった。年度当初から計画的に進めていく必要がある。	①-1 未受診生徒に対し定期健康診断の意義を繰り返し説明し、学校医・歯科医の協力により、受診率を100%にすることができた。 ①-2 保健だよりにだけでなく、健康診断や文化祭等の学校行事により、機会を捉えた情報提供が行えた。 ② 生徒保健厚生委員会活動により、定期健康診断の準備・片付けや、文化祭保健展の活動、学校内の環境整備・安全点検等が行えた。 ③-1 専門家を招いて歯科講演会を開催することで、健康・安全に関する関心が高まった。 ③-2 文化祭での歯科保健展を開催することで、歯科保健についての情報提供が行えた。 ③-3 学校献血を年3回実施することで、献血の意義と献血の現状を理解でき、献血を身近なものとして捉えることができるようになった。	①-1 定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率100%をめざすとともに、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。 ①-2 月毎の保健だよりに発行だけでなく、学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会活動、環境整備・安全点検の活動だけにとどめず、学校行事における保健活動で活躍できるような内容を検討する。さらに、保健活動のリーダーとなって活躍できる生徒の育成もめざしたい。 ③-1・2・3 引き続き講演会や文化祭の保健展、献血推進活動を開催し、健康・安全に関する関心を高める。
23	特別活動 ① 特別活動への生徒の自主的な取り組みを充実させる。	① 生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実に努め、集団活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。	① 生徒による集会時の司会進行、記録、挨拶を今以上に取り入れ、自主的に運営できるように指導する。 ② 文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り、生徒が意欲的に取り組む学校行事をめざす。	① 生徒総会、壮行会、予選会を生徒が100%運営する。 ② 文化祭への生徒の満足度90% 体育祭への生徒の満足度	(評価指標による達成度) ① 生徒総会、壮行会、球技大会、予選会は生徒が自主的に運営できた。 ② 文化祭への生徒の満足度95% 体育祭への生徒の満足度	(達成度) A  (所見) ① 各行事で生徒会が中心となって運営できた。	① 各行事で生徒の自主的な運営による活動が展開できた。 ② 体育祭ではコース対抗で1学年から3学年が協力して活動することで、	① 生徒会役員会を定期的に開催し、生徒会の自主的運営を更に強化していきたい。 ② 文化祭の満足度は高いものの、本校の特徴を生かした企画を生徒会役員

		(特活部・特別活動課)	す。 ③ みちピカ事業で周辺地域への清掃奉仕活動を行い、仲間と協力して活動ができる能力を身に付ける。	85% ③ みちピカ事業参加者平均70名	95% ③ みちピカ事業参加者平均181名 (活動計画の実施状況) ① 生徒会執行部を中心に、主体的に活動できた。 ② 体育祭・文化祭ともに、クラスやコースで工夫が見られ、それぞれの特色が生かされた取り組みであった。 ③ 6回の実施で、学校周辺の近隣を中心に丁寧な清掃を行った。	② 文化祭・体育祭ともに目標の満足度を達成した。 ③ 目標の参加者数を上回ることができた。	縦のつながりが強化され、生徒の満足度も高まった。文化祭は各コースによる企画で本校の特徴を生かした内容の充実を図った。 ③ みちピカ事業は6回の実施で、平均181名の参加があり、昨年度を上回る平均人数となった。	と共に考えていきたい。体育祭は、生徒の希望を取り入れた新たな種目を取り入れていきたい。 ③ 参加生徒に偏りが見られ、一部の者だけが活動しているので、様々な生徒が参加できる活動にしていきたい。
24	② 部活動の更なる活性化を図る。	② 部活動を充実・活性化させ、日々の活動を通して精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力心を育成する。 (特活部・特別活動課)	① 部紹介・体験入部を実施し、部活動の入部を促進する。 ② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報し、生徒の意欲を高め、校内の共通理解・協力体制を強化する。	① 入部率80%以上。 ② 表彰伝達を毎月行う。	(評価指標による達成度) ① 入部率93.8% ② 表彰伝達を年間12回行った。 (活動計画の実施状況) ① 部活動紹介で、各部1年生の入部を呼びかけるとともに、部活動見学週間を設定し、活動場所等の案内を行った。 ② 予定通り実施できた。	(達成度) A (所見) ① 着実に入部率を高めることができた。 ② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報できた。	① 各部・同好会の活発な取り組みが入部促進につながった。 ② 月1回、集会時に表彰伝達を行うことで運営の簡素化と時間短縮を実現した。他の部の活躍が刺激となり、各部好成績を残すことができた。	① 補習との両立を考え、更なる入部率の拡大に努める。 ② 様々な機会を利用して、部活動の活躍や取り組みを全校生徒に伝え、部活動の更なる活性化につなげる。



学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
25	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応し得る人材の育成をめざす。	① 工業・水産教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。(各履・コース)	・情報科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・情報科学コース ①-1 大学と連携した講義やオープンキャンパスを年3回以上実施する。 ①-2 大学と連携した講義やオープンキャンパスの生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。	・情報科学コース (評価指標による達成度) 遠足で3大学訪問実施 課題研究で高大連携実施 生徒満足度3.8 (活動計画の実施状況) 概ね予定通り実施できた。	・情報科学コース (達成度) A  (所見) 概ね予定通り実施でき目標が達成できた。	・情報科学コース 実際に大学を訪問することで大学の雰囲気がよく理解できた。講義の後には、大学生と意見交換の機会を持ち、学生の声聞くことで大学進学への夢や期待を持たせることができた。	・情報科学コース 生徒の進学への意識づけとして定着してきている。是非継続していきたい。新規の大学訪問を計画していきたい。また、科学技術に関心をもつような研究所等へ訪問し、学ぶ意義を考えさせたい。
			・環境科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・環境科学コース ①-1 大学と連携した講義やオープンキャンパスを年3回以上実施する。 ①-2 大学と連携した講義やオープンキャンパスの生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。	・環境科学コース (評価指標による達成度) 遠足で3大学訪問実施 徳島大学より教員3名、院生等17名を招き「実験講座」を実施した。 大学の模擬講義に4ヶ月間2名が参加した。 徳島大学主催「科学体験フェスティバル」に10名が参加した。 (活動計画の実施状況) ほぼ、計画通り実施できた。	・環境科学コース (達成度) A  (所見) SSHも絡み、地元大学との連携がよく図られ概ね目標を達成することができた。	・環境科学コース 大学と連携を図ることによって、直接大学の先生や学生たちと話ができて、生徒が大学について、知る良い機会となっている。このことによって生徒の進学に対する意欲も向上している。	・環境科学コース 次年度も継続して行いたい。大学とは、化学系のほかにも連携を深め、より幅広い視野をもって取り組んでいきたい。
			・機械コース ① 工場見学において職場を見学する。また、インターンシップを通じて企業との連携を密にする。	・機械コース ①-1 大手企業の工場見学を全員に対して実施する。また、2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。 ①-2 インターンシップ実施においては、生徒の希望する職場に応じた企業を斡旋する。	・機械コース (評価指標による達成度) 2,3年生全員に対して、新日鐵住金株式会社広畑製鉄所の工場見学を実施した。また、2年生22名(64.7%)の生徒に対してインターンシップを実施した。 (活動計画の実施状況) すべての生徒に対して、ほぼ生徒の希望する職場で実施できた。	・機械コース (達成度) A  (所見) ほぼ予定通り、実施できた。	・機械コース 職業選択時の判断材料とするとともに、学習に対するモチベーションのアップや職業観の醸成に役立てることができた。 学校インターンシップは昨年度に引き続き、高い参加率であった。	・機械コース 生徒のニーズを充分調査し、今年度のノウハウを充分引き継ぎながら、次年度も、より良い内容となるよう、工場見学やインターンシップの受け入れ先を検討し、引き続き実施したい。
			・生産システムコース ① 有意義な工場(職場)見学を行う。また、インターンシップを通じて技術者として生きることを体験する。	・生産システムコース ①-1 県内外企業の工場見学を全員に対して実施する。インターンシップは2年生で行う。	・生産システムコース (評価指標による達成度) 4月に生産システムコース2クラス(78名)で西精工株式会社と四国化工機株式会社の工場見学を実施した。 (活動計画の実施状況) 県内企業の見学や、インターンシップもすべての生徒に対して、ほぼ生徒の希望する職場で実施できた。	・生産システムコース (達成度) A  (所見) ほぼ予定通り実施できた。	・生産システムコース 就職企業の判断材料と、社会性の育成、学習に対する意欲向上などに役立てることができた。	・生産システムコース 生徒のニーズに応えることはもとより、生徒がより積極的に活動できるよう、より一層の動機づけをしていきたい。
			・電気コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にする。  ② コースで課題研究の発表会を実施する。	・電気コース ①-1 インターンシップで2社以上に生徒が参加する。 ①-2 インターンシップの参加者によるHRでの報告会を実施し、体験内容を共有する。 ② 課題研究発表会に2・3年生全員が参加する。	・電気コース (評価指標による達成度) 目標値を達成した。 (活動計画の実施状況) ① インターンシップ2社に11名の生徒が参加し、HRにおいて報告会を実施した。 ② 電気コース2学年を対象に課題研究発表会を実施した。	・電気コース (達成度) A  (所見) ① 予定通り実施できた。 ② 予定通り実施できた。	・電気コース ① 生徒には、働くことや進路について真剣に考える助けとなった。 ② 発表の場を設定することにより、3学年生徒の達成感と2学年生徒の専門への意欲の向上を図ることができた。	・電気コース ① 次年度も継続していきたい。 ② 2年生に見せることができ、次年度へ引き継ぐことができた。
			・情報通信コース	・情報通信コース	・情報通信コース	・情報通信コース	・情報通信コース	・情報通信コース

	① インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	①-1 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。 ①-2 インターンシップにHR生徒の2割以上が参加し、項目の6割以上で「良い」評価をいただく。	(評価指標による達成度) 目標値を達成した。(活動計画の実施状況) 7名の生徒が参加し、全ての生徒に「良い」を頂いた。	(達成度) A (所見) 高評価を頂き、引き続き継続して欲しい旨を頂いている。	本コースでは実習しない3DCADの操作や、3Dプリンターへの出力などを体験できた。このことで、ICT系への関心が高まった。	次年度も継続していきたい。新たな事業所を開拓し、映像やドローン関係にも見地を広げたい。
	・環境土木コース ① 関係機関との連携も図りながら、インターシップを実施し、生徒の意識向上と進路選択に役立てる。	・環境土木コース ①-1 インターンシップ参加生徒クラスの40%以上とする。	・環境土木コース (評価指標による達成度) インターンシップ参加率35%となった。(活動計画の実施状況) 5社10名が参加し生徒の満足度は90%であった。	・環境土木コース (達成度) B (所見) 高評価をいただき来年度より参加数増と実施期間の延長依頼があった。	・環境土木コース 参加した生徒の意識は高くなることにも進路選択にも役立っている。	・環境土木コース 参加生徒増加と実施期間を3日間に延長することを検討したい。
	・建築コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・建築コース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.7以上をめざす。 ①-3 3学期に2年生対象に課題研究発表会を行う。	・建築コース (評価指標による達成度) おおむね目標を達成した。(活動計画の実施状況) 見学や体験を通してほとんどの生徒が、仕事内容への興味や専門教科に関心を持つことが出来た。課題研究発表会を建築コース展で行った。	・建築コース (達成度) B (所見) 昨年に引き続き建築士会と連携して設計コンペに参加することができた。	・建築コース 生徒は、働くことや進路について真剣に考えることができた。また、建築士会の方とのディスカッションで建築士の生の声を聞くことによって、建築業に対して理解を深めることができた。	・建築コース 次年度も継続していきたい。
	・総合デザインコース ① インターンシップや大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。  ② 実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、対外的な活動を更に充実させる。	・総合デザインコース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 大学訪問を実施する。 ②-1 H28年度コース展を実施し、地域・中学校などにPRする。 ②-2 それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み、成果を出す。	・総合デザインコース (評価指標による達成度) 目標をやや下回り、18%が参加した。(活動計画の実施状況) 4月と11月に大学訪問を実施した。課題研究でそれぞれのテーマに取り組み、コンペやイベント、コース展で発表した。	・総合デザインコース (達成度) B (所見) コース展だけでなく、コンペやイベントに積極的に参加した。	・総合デザインコース ① 大学訪問、企業訪問を通じて、多様な進路を知ることができた。 ② コース展、コンペ、LEDアートフェスティバルなどのイベントに参加することによって地域や企業との連携を図ることができた。	・総合デザインコース インターンシップについては、進路に繋がるような企業との連携を行いたい。対外的な活動については、次年度も継続していきたい。
	・海洋科学・海洋総合コース ① 関係機関と連携したフィールドワークやインターシップを積極的に実施し、水産・海洋に興味関心をもたせる。	・海洋科学・海洋総合コース ① 漁業体験、フィールドワーク、インターシップを実施し、実施後アンケートで水産・海洋に興味関心を持つようになった生徒の割合60%以上をめざす。	・海洋科学・海洋総合コース (評価指標による達成度) 漁業体験のアンケート結果において興味関心を持った生徒の割合67%。(活動計画の実施状況) 海士漁体験1回、建網漁体験1回、大敷網体験3回、志和岐フィールドワーク8回、吉野川河口2回、鮎喰川1回等を実施した。	・海洋科学・海洋総合コース (達成度) B (所見) 概ね達成できた。	・海洋科学・海洋総合コース 漁業体験やフィールドワークを通じて専門科目への興味関心を高めることができた。	・海洋科学・海洋総合コース 次年度も発展的に継続して取り組んでいきたい。

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 ( 目 標 値 )	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
26	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等	① 工業や水産に関する専門的な技能の習熟度を高め、技能の向上を図る。(各類・コース)  ② 専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者の増加を図る。(各類・コース)	・全類全コース ① 各コースに実態に即して、スキル検定等の実施やものづくりコンテストへの出場をめざす中で、技能の向上に努める。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。	① 各コース毎に、技能の向上を目指した取り組みをする中で、各種コンテスト・大会へ出場し、各専門分野での上位入賞をめざす。 ② 工業系では、「ジュニアマイスターゴールド」取得者15名以上、「ジュニアマイスターシルバー」30名以上をめざす。水産系では、指定資	(評価指標による達成度) (工業) ① 高校生ものづくりコンテスト県大会では各種目とも上位入賞を果たした。 ② ゴールド14名(昨年19) シルバー45名(昨年56) 特別表彰0名(昨年4)	(達成度) (工業) B (海洋) B  (所見) (工業) ① 各種コンテスト大会へ出場	(工業) 各コースにおける実習等でのスキルアップや資格取得のための補習も計画的に実施した。ジュニアマイスター取得目標値を、ほぼ達成した。 (海洋) ① 各発表会に参加することで、他校の取り組みを	(工業) 次年度へ向けスキルの向上とともに、資格取得においては合格率の向上を図るため、指導法の工夫や生徒の目的意識を醸成していく必要がある。 (海洋) ① 各発表会に参加し、他校の取り組みを参考にす

に適切に対応  
得る人材の育  
成をめざす。

③ 各種競技会等へ積極  
的に参加し、専門性を  
高める教育を展開する。  
(各類・コース)

格の積極的取得をめざす。

(海洋)  
① 概ね達成できた。  
② 潜水士39%, 第二級海上特殊無線技士70%の合格率であった。  
(活動計画の実施状況)  
(工業)  
① 概ね達成できた。  
② 資格取得のための補習等を計画的に実施した。  
(海洋)  
① 徳島県, 四国, 全国のSSH生徒研究発表会, 日本水産学会中四国地区大会, 東京都立戸山高校SSH生徒研究成果発表会, 徳島県水産研究課成果発表会, あわ教育発表会に参加し, 発表を行った。  
② 資格補習を計画的に実施した。

し, その一部は  
上位入賞した。  
② 表彰者総数が  
前年度より31%  
減少した。  
(海洋)  
① 各発表会等に  
積極的に参加す  
ることができ  
た。  
② 多くの生徒が  
積極的に補習に  
参加し, 資格取  
得に挑戦した。

参考にすることができ  
、生徒により刺激を与え  
ることができた。  
② きちんと補習に参加し  
た生徒の合格率は高かつ  
た。

ることから生徒の意欲を  
高めていきたい。  
② 補習に参加するだけ  
でなく, 家庭でも学習に取  
り組むように指導してい  
きたい。

・情報科学コース  
① 科目「実習」においては, 口頭試問を実施し, 自ら学び, 考え, 問題を解決する態度を育成する。  
② 資格取得を奨励し, 資格補習を計画的に実施する。  
③ 各プログラミングコンテストに積極的に取り組む。

・情報科学コース  
① 期限内実習レポート提出率95%以上をめざす。  
②-1 情報技術検定2級の合格率が80%以上。  
②-2 ITパスポート試験合格5名以上, 基本情報技術者試験合格2名以上。  
③ プログラミングコンテストの入賞をめざす。

・情報科学コース  
(評価指標による達成度)  
① 提出率 98%  
② 情報技術検定2級 80% ITパスポート1名合格 基本情報技術者合格なし  
(活動計画の実施状況)  
① 週一回の実習を行い, その都度レポートを提出させた。  
② 夏休み等に各補習を行い受験させた。  
③ 夏合宿でアプリケーションを作成した。

・情報科学コース  
(達成度)  
A  
(所見)  
① ほぼ全員が期限内までに提出できた。  
② 基本情報以外は概ね達成できた。  
③ 2作品が全国大会に出場した。

・情報科学コース  
大多数の生徒が実習後, 速やかにレポート提出を完了する習慣を身につけた。口頭試問により内容の理解度もあがった。  
資格試験に挑戦することで生徒の意識を高めたり, 専門知識の定着に繋がった。作品を作り全国大会へ出場することで達成感が生まれた。創意工夫する能力が身についた。

・情報科学コース  
極わずかな生徒が提出期限に間に合わない。粘り強く指導し, 今後も継続していく。  
情報技術検定は昨年より合格率が上がった。継続していきたい。  
基本情報は難関であり, 合格者を出すために指導法を検討する必要がある。  
次年度も継続できるように関係機関との連携を図っていく。

・環境科学コース  
① 科目「実習」においては, 口頭試問を強化し, 自ら学び, 考え, 問題を解決する態度を育成する。  
徳島市内を流れる河川の水質調査を行い, 徳島市, 徳島県と連携して, 郷土の自然環境の保護に積極的に取り組む人材を育成する。  
② 資格取得を奨励し, 資格補習を計画的に実施する。  
③ 科学論文発表(ポスター発表)を目標に積極的に取り組む。ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。

・環境科学コース  
① 期限内実習レポート提出率95%以上をめざす。  
徳島市・徳島県の環境担当部署との連携を図る。  
③ 危険物乙4の取得率が80%以上。  
③ SSH発表会(県, 四国)全国総合文化祭での発表をめざす。  
ものづくりコンテスト四国大会に出場し, 全国大会への出場をめざす。

・環境科学コース  
(評価指標による達成度)  
① 提出率 98%  
② 徳島県立工業技術センターで実技講習を実施した。  
③ 第3学年の取得率は73%であった。  
各学年の取得率  
危険物乙4 1年 57%→34%  
危険物乙4 2年 70%→64%  
危険物乙4 3年 83%→73%  
④ 徳島県および四国大会でポスター発表を行った。コンテストは四国大会に出場した。  
(活動計画の実施状況)  
① 実習の各班で徹底した。  
② 実験室のみの研修となったが, 内容は充実していた。  
③ 補習を実施し, 合格を目指した。  
④ ものづくりコンテストは今年度は県大会が行われた。

・環境科学コース  
(達成度)  
B  
(所見)  
資格取得に関しては目標を十分に達成することはできなかったが, その他の項目に関してはほぼ, 予定していた内容で達成することができた。

・環境科学コース  
研究発表会・コンテスト等においては, 積極的に取り組んで, ある一定の成果を上げることができた。  
実習レポートに関しては一部の生徒で提出が不十分なときがあった。  
資格試験においては, 昨年度より成績が低下したが, 今後さらにチャレンジする主体的な姿勢が望まれる。

・環境科学コース  
検定や, 資格試験の補習については, さらに計画的に次年度も実施していきたい。  
SSH事業を進めることによって, 全国レベルの活動を行っている他校生たちからの刺激を, 本校生徒の活動の糧としたい。

・機械コース  
① 資格取得を奨励し, 資格補習を計画的に実施し, 合格率のアップを図る。  
② ものづくりに係わる競技大会

・機械コース  
① 2級ボイラー技士(2年)の合格率を補習出席者の60%以上。機械製図検定(3年)の合格率を65%以上をめざす。  
② ものづくりコンテストで,

・機械コース  
(評価指標による達成度)  
① 2級ボイラー技士の合格率は59%, 機械製図検定の合格率は20%であった。  
② ものづくりコンテストでは県内大会で優勝し, 四国

・機械コース  
(達成度)  
A  
(所見)  
十分な成果が得られた。

・機械コース  
① 2級ボイラー技士については, 当初の目標を達成することができた。機械製図検定の指導方法については今後, よりよい方法を検討していく。

・機械コース  
2級ボイラー技士の指導方法はほぼ確立できたと思われる。また, 機械製図検定の指導方法をさらに改良し, 65%以上の合格率をめざす。

<p>を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>県内優勝し、四国大会に進出する。また、四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き、本大会に出場する。</p>	<p>大会に進出した。また、第5回四国地区高校生溶接技術競技会でも県内大会で団体優勝し、本大会に出場した。 (活動計画の実施状況) 授業を欠席した生徒には、後日、追実習するなどして、生徒全員に対して目的のスキルをつけさせた。</p>		<p>② 各種コンテストにおいてもおおむね目標とする結果を残すことができた。</p>	
<p>・生産システムコース ① メカトロニクス関連企業に就職する際、学習していた良かったと評価されるような実習をしっかり教育する。 ② コースの基幹となる資格を取得できるよう、最大限のサポートをする。 ③ 各種の技術的なコンテストに応募出場し、賞を得る。</p>	<p>・生産システムコース ① シーケンスなどのスキルスタンダードを含む学習内容を充実させる。 ② クラス60%以上の合格率をめざす。 ③ ロボット競技など、全国大会出場をめざす。</p>	<p>・生産システムコース (評価指標による達成度) シーケンス、CADやCAD/CAMの活用などに力を入れて学習した。 (活動計画の実施状況) 本年は資格、ロボット大会共にやや低迷してしまったが、SSHや6次産業化プロデュース事業などは積極的に取り組み、結果を残せた。</p>	<p>・生産システムコース (達成度) B (所見) 新しい活動に積極的に取り組めた。</p>	<p>・生産システムコース ① より高度なものづくりをめざすように変化してきた。 ② CADなどの資格に関しては、特に実技面で非常に高いスキルを身に着けた。 ③ 各種の取り組みにおいて、内容の研究はもとより、プレゼンテーション能力なども著しく向上した。</p>	<p>・生産システムコース 初級CAD検定などは約9割の合格率であるが、他の資格も同様の結果をめざして指導していく。 また、3Dプリンタなどの導入と活用などで、より新しい技術を生徒に提示していく。</p>
<p>・電気コース ① 資格や検定の合格率向上を目指して補習を充実させるとともに学習習慣を身に付けさせる。 ② ものづくりコンテストへの準備を早期の段階から始め、指導体制を充実させ、十分な練習時間を確保する。</p>	<p>・電気コース ① 資格受験者の補習出席率90%以上を目標にする。 ② ものづくりコンテスト県大会で優勝し、四国大会に出場する。そして全国大会への出場をめざす。</p>	<p>・電気コース (評価指標による達成度) ① 補習出席率は90%を超えている。 ② 県大会に1名出場し優勝であった。四国大会に出場し準優勝であった。 (活動計画の実施状況) ① 補習後、習熟度の低い者には追加指導を行い指導を充実させた。 ② 計画通りの指導を行っていたが、四国大会では準優勝となった。</p>	<p>・電気コース (達成度) B (所見) ① 補習への参加も定着している。 ② 県大会で優勝したが、四国大会は準優勝であった。</p>	<p>・電気コース ① 資格試験の合格率向上にも貢献している。 ② 競技の練習に取り組むことで技術や集中力を身につけた。更には大会を通じてプレッシャーに耐え得る精神力も身につけた。</p>	<p>・電気コース ① 補習への参加も大切であるが、合格率向上のために更なる家庭学習の充実を図る。 ② 安定して競技に望めるようメンタル面・体調管理にも気を配るとともに更なる技術面での向上をめざす。</p>
<p>・情報通信コース ① 学校技能検定により、技能の習得を保障するとともに、有益な資格を取得させ、検定の合格をめざす。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ③ ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・情報通信コース ① 有益な資格取得をめざし、2つ以上の資格を取得する。 ③ ものづくりコンテスト四国・全国大会出場をめざす。</p>	<p>・情報通信コース (評価指標による達成度) 80%を越えている。 (活動計画の実施状況) 基本情報処理技術者試験に2年生が2名合格した。計画通りの指導を行った。四国大会では奨励賞を頂いたが全国へは進めなかった。</p>	<p>・情報通信コース (達成度) A (所見) 受験意欲と補習への参加継続が必要。校内では優秀だが四国ではまだまだである。</p>	<p>・情報通信コース 難関の基本情報処理技術者試験に2年生が2名合格できた。 コンテストへ参加させる学年を検討した方が、良い結果に繋がる可能性がある。</p>	<p>・情報通信コース 何のために学習するのか、学習すると自分の興味の何が満足するのか等のモチベーションを保てるようにする。 四国大会を目標ではなく、全国大会出場を目標に取り組む。</p>
<p>・環境土木コース ① スキルスタンダードを実施し、技能目標を明確にすることで意欲的に測量技術習得を図る。 ② 専門知識の理解と意欲向上のため資格取得をめざす。 ③ ものづくりコンテスト測量競技など積極的に出場をめざす。 ④ コンクリート甲子園に出場する。</p>	<p>・環境土木コース ①-1 レベル4達成率70%以上をめざす。 ②-1 2級土木施工管理技術検定・学科試験50%以上、測量士補20%以上の合格をめざす。 ③-1 四国・全国大会出場をめざす。 ④-1 入賞をめざす。</p>	<p>・環境土木コース (評価指標による達成度) ① スキルスタンダードレベル4達成度92%となる。 ② 2級土木施工管理技術検定・学科試験66%、測量士補48%合格することができた。 ③ 四国大会4位 ④ 総合成績で準優勝 (活動計画の実施状況) ① スキル実施により生徒の意識向上を図ることができた。 ② 教材・過去問の研究・対策を行った。 ③④ 練習効率を高めるため生徒自身に考えさせながら取り組んだ。</p>	<p>・環境土木コース (達成度) A (所見) 資格取得や各種大会での成果が出ることになってきた。</p>	<p>・環境土木コース ① スキルスタンダードの実施により生徒の意識も高めることができている。 ② 資格取得により就職後の業務に役立てることができた。 ③④ 大会に出場することでコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上することができている。</p>	<p>・環境土木コース 今後も成果が出せるよう継続して取り組みながら、改善に努めたいと思う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築コース</li> <li>① 有益な資格を取得させ、検定の合格をめざす。</li> <li>③ ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築コース</li> <li>① 有益な資格取得を目指し、2つ以上の資格を取得する。</li> <li>③ ものづくりコンテストで、県予選突破し、四国大会に進出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築コース</li> <li>(評価指標による達成度)</li> <li>概ね達成した。</li> <li>(活動計画の実施状況)</li> <li>主に実習において実施できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築コース</li> <li>(達成度)</li> <li>A</li> <li>(所見)</li> <li>やや昨年より成果が上がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築コース</li> <li>実習時に行うことで少人数学習となり理解できていない生徒に対する指導が容易であり確実な知識の習得につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築コース</li> <li>① 資格試験と、授業内容のタイミングは完全でない面があるが、生徒が積極的に挑戦出来るようにしたい。</li> <li>② 製作予算などをもう少し確保したい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合デザインコース</li> <li>①-1 有益な資格を取得させ、検定合格率向上をめざす。</li> <li>② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。</li> <li>③ デザイン分野の各種コンクールに出品し、入賞をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合デザインコース</li> <li>①-1 レタリング60%以上、トレース75%以上、色彩検定50%以上の合格率をめざす。</li> <li>② 補習に積極的に参加させる。</li> <li>③-1 ものづくりコンテストで県大会突破をめざす。</li> <li>③-2 課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10以上をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合デザインコース</li> <li>(評価指標による達成度)</li> <li>概ね達成した。色彩検定については1級合格者がでた。</li> <li>(活動計画の実施状況)</li> <li>色彩検定やグラフィックデザイン検定、危険物の補習については早朝に行い、100%に近い出席率であった。</li> <li>ものづくりコンテストは惜しくも四国大会出場とはならなかったが、入賞を果たした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合デザインコース</li> <li>(達成度)</li> <li>A</li> <li>(所見)</li> <li>レタリング検定3級、トレース検定、色彩検定2級・3級は100%の合格率であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合デザインコース</li> <li>実技検定であるレタリング、トレース検定は実習時だけでなく、放課後や家庭での学習で成果をあげている。</li> <li>色彩検定、グラフィックデザイン検定、危険物の補習については早朝補習を計画的に行うことにより、成果をあげてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合デザインコース</li> <li>① 資格については、今後も継続して、各検定の最上位をめざしていきたい。</li> <li>② 積極的な資格補習への参加を促したい。</li> <li>③ 各種コンペに今後も継続して出品していきたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋科学・海洋総合コース</li> <li>① 1年生で基本的なロープワークを身につけさせる。</li> <li>② 四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびSSH生徒発表会に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋科学・海洋総合コース</li> <li>① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合90%以上をめざす。</li> <li>② 四国大会で最優秀賞をとり、全国大会出場をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋科学・海洋総合コース</li> <li>(評価指標による達成度)</li> <li>① 5種類のロープワークを習得している生徒の割合90%。</li> <li>② 全国水産・海洋系高校産業教育意見体験発表会全国大会優秀賞</li> <li>(活動計画の実施状況)</li> <li>② 生徒研究発表会では全国大会に出場し優秀賞を得ることができたが、生徒研究発表会では全国大会出場を果たすことができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋科学・海洋総合コース</li> <li>(達成度)</li> <li>B</li> <li>(所見)</li> <li>① 繰り返しロープワークを練習し、目標を達成することができた。</li> <li>② 十分発表練習の時間がとれるように、計画的に指導しなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋科学・海洋総合コース</li> <li>① 繰り返し練習を行い目標を達成することができた。</li> <li>② 優勝校とはプレゼンテーションで差が付いてしまったと思われるため、さまざまな発表会に参加して生徒のプレゼンテーション力を高めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋科学・海洋総合コース</li> <li>① 次年度も繰り返し練習を行い、素早く確実にロープワークを行えるようにしていきたい。</li> <li>② 全国大会に出場できるように1年次から授業内でプレゼンテーションする機会を設け、計画的に指導に取り組んでいきたい。</li> </ul>

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 ( 3 月 1 日 現 在 )			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
27	家庭・地域等との連携・貢献 ① 保護者への連絡・学校の情報提供を、文書とホームページへのアップの両方で行う。	① シャトル便の積極的な活用を図り、家庭との連携を密にするとともに、生徒の社会規範確立をめざす。また、PTA活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻りに意見を交換する機会の充実に努める。(企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 生徒・保護者・教員相互の関わりについて研修を深める。 ② 体育祭や文化祭のPTA活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする。 ③ 学校と家庭との連携を密にし、ホームページでの行事参加の呼びかけをする。 ④ PTA役員と生徒代表の意見交換会を設け、保護者と生徒の意思疎通を図る。	① 保護者・教員参加のもと学校行事関係のPTA役員会を2回以上実施する。 ② 体育祭・文化祭実行委員会を開催し、役員参加50%以上を目標にする。 ③ 文化祭・体育祭の保護者向け案内をホームページにアップする。毎月初めに保護者向けの各種案内を確認できるように、月末までにホームページの更新を行う。 ④ 6月に学校祭等について意見交換会を実施する。	(評価指標による達成度) PTA役員会は3回開催。役員参加率が80%に向上した。 (活動計画の実施状況) PTA役員各種行事への参加率は大幅に向上した。生徒会との会合を通じて、協力体制を築きつつある。	(達成度) A (所見) 昨年度より活発なPTA活動となった。文化祭においても生徒会と協力することができた。	① PTAによる積極的な役員会の開催が行われた。 ② 体育祭・文化祭への積極的な参加が見られた。定時制のPTAとの協力も見られた。 ③ 連絡文書が中心となり、ホームページへの掲載があまりできなかった。 ④ 生徒会役員との意見交換により、体育祭・文化祭での保護者の取り組みが積極的になった。	① 内容を厳選しながら開催していく必要がある。 ② 引き続き参加を促す必要がある。 ③ ホームページをもっと活用する必要がある。 ④ 体育祭・文化祭以外にも生徒会と連携していきたい。
28	② 各事業の担当がそれぞれに報道資料を提供するよう、システムを確立する。	② 積極的な情報発信・広報活動を行い、地域と密接に連携、貢献できる学校づくりに努める。(企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 地域・大学・企業等と連携した事業を積極的に実施する。 ② 本校の活動を積極的に広報する。	① 連携地域・団体を新規開拓する。 ② 新聞やテレビなどのメディアを通じて積極的に行う。	(評価指標による達成度) ① SSH事業 ② ユネスコスクール (活動計画の実施状況) ① SSH発表会を実施できた。 国内調査員、県内の学識経験者、運営委員などを招き実施し成果を発表できた。	(達成度) B (所見) 予定通りの成果は得たが新規の活動への積極性を伸ばす余地があった。	② 様々な団体との連携により生徒・保護者・地域の方々から評価をいただくことができた。	①② 効果的で持続可能な連携事業に努める。

29	<p>③ 中学校関係者への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的に広報する。</p>	<p>③ 中学生体験入学やオープンスクール、ホームページや中学校訪問等を通して、本校の教育内容・教育活動についての広報活動を積極的に実施する。 (教務部・教務課) (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)</p>	<p>① 各課やコースの特色を生かし、中学生に興味・関心を持ってもらえるような実習内容を検討し、より多くの目的意識を持った中学生に受検してもらう。 (教務部・教務課) (企画部・企画広報課)</p> <p>② 魅力あるオープンスクールを実施し、地域に信頼され、多くの方が参加できるようにする。 (企画部・企画広報課)</p> <p>③ 広報内容を吟味し、速やかな情報発信を行う。 (企画部・企画広報課)</p> <p>④ 中学校を訪問し、本校の教育内容・教育活動について説明し、中学校教職員に本校について理解してもらう。 (企画部・企画広報課)</p>	<p>① 体験入学参加者へのアンケート調査で、満足度の4段階評価が3.6以上とする。</p> <p>② オープンスクール参加者へのアンケート調査で、満足度の評価が4段階で3.6以上とする。</p> <p>③ 学校ホームページの更新回数を月3回以上とする。 また、緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。</p> <p>④ 近隣中学校への学校訪問を年1回以上実施する。</p>	<p>② 校内におけるボランティア活動や徳島ユネスコ協会と協力し活動に参加できた。</p> <p>(評価指標による達成度)</p> <p>① 中学生体験入学参加中学生679名(昨年度798名)満足度の4段階評価は3.6</p> <p>② オープンスクール参加66名(昨年度108名)アンケート満足度100%</p> <p>③ 4月から2月までの更新回数 SSH関係 10回 トピックス 8回 類コース 30回 部活動 60回 その他 14回 合計 122回</p> <p>④ 6月から11月までの中学校進学説明会 28校を訪問</p>	<p>(達成度) B (所見)</p> <p>①② 目標を達成できた。</p> <p>③ HP掲載について 各課・コース部活動の協力で積極的な更新できた。</p> <p>④ 中学生、中学校教員から好評を得た。</p>	<p>① 参加中学生の98%が体験入学前と比べて、徳島科学技術高校について理解できたと答え、90%が体験内容がよかったと答えている。徳島科学技術高校の広報という点では当初の目的を達成できた。</p> <p>② 本年度の参加人数は昨年度より減少したが体験入学の参加率がよかったためと思われる。</p> <p>③ 積極的な更新により、本校の取り組みの理解が広がっている。</p> <p>④ 本校の取り組みが直接中学生に理解され大変有用であった。</p>	<p>① 体験学習の時期や時間についてちょうどよいという意見がほとんどであり内容についても95%の参加中学生が満足している。今後も本校の教育内容の理解のため授業展開の工夫を図っていく。</p> <p>② 中学生のみでなく、一般の方からの本校への関心が高い。今後も工夫を進めていく。</p> <p>③ 類・コース、部活動により偏りをなくすよう努める。</p> <p>④ 中学生・中学教員の理解を深めるため積極的に活用する。</p>
----	----------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------